

## 学校評価について

学校評価とは

専修学校は、教育の質の改善及び充実を図るため、自己評価の実施と公表の義務化、学校関係者評価の実施・公表が努力義務化されています。

本校におきましても学校評価を実施し、評価結果を基に検討、改善することで特色ある専修学校作りの推進に努めております。

自己評価及び学校関係者評価の結果は以下の通りです。

令和4年度の取り組みと評価
---------------

### <学校関係者評価委員会>

令和5年3月24日（金）：第8回学校関係者評価委員会実施いたしました。

評価者：学校関係者評価委員5名 参加者：学校長以下4名

以下評価コメント（一部抜粋）

#### 「I 教育理念・目的・人材育成像」について

地域に貢献できる看護師の育成を目指した理念・目的・目標は定められている。地域性を考慮した研修企画や外国の方との交流を図り多様性を受け入れる素養を育成している。

#### 「II 学校運営」について

運営方針や事業計画の策定においては評価できる。昨年指摘された情報システムについても改善が見られ新年度より教材もタブレットを用いたものに変更されるなど時代にあった取り組みである。IT化が進む中でHPの充実やインスタグラムの活用等、情報システムに力を入れてきた状況がよくわかった。

#### 「III 教育活動」について

コロナ禍ではあったが、シナリオモデルやシミュレーション教育を導入して教育活動を行っている。今後は実習で専門職との意見交換を大切に学びにつなげ、魅力ある教育活動に期待する。教員の経験年数は浅いが、実務経験は長いので互いに得意分野を生かしてほしい。教員の教育体制も必要。

#### 「IV 学修成果」について

就職率は100%と高いが、国家試験合格率が低下した。また、退学者も少数いるので低減に向けた取り組みが必要。今年度、同窓会設立して、卒業生の把握に努めている。活躍している状況を広報に結び付けてほしい。また、卒業生に対して、ホームカミングデイを実施している。

#### 「V 学生支援」について

進路就職支援に関しては、体制ができています。健康管理も体制もあり、保護者との連携の適時できているが、スクールカウンセラーの利用が少ないのが気になった。社会人入試日程を増やし、入試科目を減らし、社会人のニーズを整備したが、学力の低下につながらないか心配。社会人が子どもの行事に参加できるのは良い。

#### 「VII 学生募集」について

努力はしているが、結果が出ていないので方法を変える。福祉業界への募集を行うのも良い。パンフレットをもう少し工夫したほうがよい。

#### 「IX 社会貢献・地域貢献」について

法令遵守等はできている。今年度は、看護の日の講演会で近隣住民への参加も募っている。また、ごみ拾いなどボランティア活動も実施できている。

前年度と比較し、評価平均がわずかに上昇している。過去4年間では、最も高い。「社会貢献・地域貢献」は上昇したが、「教育活動」「学修成果」は、前年度より低下した。これは、国家試験対策への課題が明らかにされたことと言える。

（令和5年度の課題）

- ①学生募集に力を注ぐ。
- ②国家試験対策を計画的に実施し、合格率を上げる。
- ③ICTを導入し、教育活動に活かす。
- ④教職員の教育体制を作る。

学校関係者評価委員会、大項目評価の平均値(令和5年3月24日)

5点満点評価

評価項目 (*評価大項目及び付随する小項目内容・項目数)	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
	平均 評点				
I、教育理念・教育目的・人材育成像 *学校の理念・目的・育成人材像は定められているか等 5項目	4.8	4.4	4.7	4.8	4.8
II、学校運営 *目的等に沿った運営方針が策定されているか等 8項目	5.0	4.5	4.5	4.3	4.5
III 教育活動 *目標の設定、教育方法と評価、資格試験・国家試験教職員について等 14項目	4.6	4.2	4.5	4.7	4.25
IV 学修成果 *資格取得率の向上が図られているか、卒業後のキャリア形成への効果を把握し 教育活動改善に活用しているか等 5項目	2.4	2.6	3.7	4.0	3.6
V 学生支援 *進路・就職に関する支援体制は整備されているか等 8項目	4.2	3.3	4.5	4.5	4.6
VI 教育環境 *施設・設備は、教育上の必要性に対応できるよう整備されているか等 3項目	5.0	5.0	5.0	5.0	4.8
VII 学生募集 *学生募集活動は、適正に行われているか等 4項目	4.8	4.6	4.7	4.9	4.8
VIII 法令等の遵守 *法令、専修学校設備基準等の遵守と適正な運営等 4項目	4.7	4.8	5.0	5.0	5.0
IX 社会貢献 地域貢献 *学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献・ボランティア活動をしているか 3項目	5.0	4.5	4.2	4.1	5.0
総項目平均評価点	4.5	4.2	4.53	4.58	4.59

教員自己評価 (令和5年1月末実施)

<教員自己評価>

5点満点評価

各評価内容別平均値での比較		H30	R1	R2	R3	R4
I、教育課程 教授活動	1. 授業	3.4	3.8	3.6	3.6	3.5
	2. 実習	3.3	3.5	3.3	3.3	3.4
	3. 学級運営・指導	3.3	3.5	3.3	3.3	3.4
	4. 資格試験	3.2	3.1	2.9	3.3	3.2
	5. 行事・他	3.4	3.8	3.4	3.5	3.6
II、研究・研修	6. 研究・研修	3.4	3.3	2.8	2.5	2.8
III、組織運営 広報活動	7. 組織運営	3.6	3.6	3.4	3.5	3.5
	8. 学生募集	3.1	3.5	3.3	3.4	3.4
	9. 施設設備	3.6	3.9	3.4	3.7	3.5
総合平均点		3.4	3.5	3.3	3.4	3.4

- 令和5年1月末実施

教員自己評価では、「Ⅰ,教育課程・教授活動」が 21 項目、「Ⅱ,研究・研鑽」が 3 項目、「Ⅲ,組織運営・広報」が 11 項目、3 分野 35 項目について 5 段階評価を行い、自己の取り組みの改善を図っています。

#### 令和 4 年度教員自己評価結果（一部抜粋）

1. 授業に関しては、教員間の協力体制は高い評価だったが、全体的に昨年より下回る評価結果となっている。各自の評価理由は、充実した評価内容が記載されているが、評価点としては、低い。次年度の授業には、今年度以上に ICT を導入していきたいが、現在ある演習用シミュレーターモデル等の使用頻度を上げていくことともに、教員の ICT スキルアップも課題である。
2. 実習に関しては、前年度より高い自己評価になっている。特に臨床指導者との連携・調整が円滑に行われるようになり、臨地での学習環境が整ってきたと言える。臨地実習は、場所を変えた授業で学習効果が高い。今年度もコロナ禍のため短縮傾向の臨地実習ではあったが、各教員の頑張りがみえる評価であった。
3. 学級運営・学生指導に関する評価は、前年と同様だった。自分の役割を十分に果たせたかという点では、やや低めであるが、報告・連絡・相談は、できているとの評価からも教員間の連携は図れてきている。学生の健康管理や学習環境づくりに関しては、コロナ感染や濃厚接触者になる学生もいたが、感染予防・健康管理の評価は高く、これらに力を入れていた結果と言える。
4. 国家試験に関しては、各学年とも前年度同様に国試対策年間計画を基に活動した。特に成績低迷者へは、早めに個別的に取り組み始めたが、なかなか効果が上がらなかった。ただ、教員間の協力体制は良好で、自主的に学生の学習に参加する教員が多かった。次年度は、合格率の向上につながるよう試験対策の計画は、内容、方法、時期共に効果のある適切なものになるよう努力していきたい。
5. 行事他に関しては、今年度は評価項目のバランスはよくなっている。行事への準備は、コロナ禍ではあったが滞りなく実施できている。また、今年度は地域の方にも広報し、看護の日特別講演に山田千紘氏を講師としてお迎えして実施することができた。行事への取り組みも教員間で協力的に円滑に行われている。
6. 研究・研修に関しては、例年評価点は低い。研修参加回数は、個人差が大きいこともあるが、増加傾向にはある。研修は、教員の資質を向上させるのに大きな効果があるため何とか受講機会を設けるようにしていきたい。今年度は、教員 1 名が近隣病院へ実務研修に参加し、また大学より教員研修生 1 名を受け入れた。教員の中からは、そろそろ研究もしないと、という声も上がっている。教員の意欲を成果として実らせ、学生へ良質な教育が提供できることが重要な課題である。
7. 組織運営に関しては、組織の一員として互いに協力体制を築き行動できたことや、問題発生時の連携が図れていた等の評価が高値なっていることから、組織力がやや向上してきたといえる。ただ、今年度はコロナに感染した教員おり、自己の健康管理の評価が下がる結果になった。
8. 学生募集に関しては、例年通り学校訪問、ポスター配布、オープンキャンパス等を実施した。また、インスタグラム、地域情報サイトの活用を開始し、随時、担当の教職員が HP 等を更新している。更に次年度から社会人を対象に開始する専門実践教育訓練給付制度について、医療機関訪問や FM ラジオを通して周知している。しかし、鹿児島県下に看護大学の新設、一般就職率の増加と相まって、学生募集活動が学生数の増加という成果に繋がらなかった。また、業務改善や軽減に関しては、データ共有ホルダーの利用やラインワークス（ビジネスチャット）の活用を始めた。様々な文書、成績入力、学籍簿管理等を事務へ業務移管し、教員の業務負担は改善されている。

全体的に変化はなく、昨年と同様であるが、教員間の連携がはかれ協力体制が整ってきた。教授活動については、授業がやや下降し、実習や学級運営・行事等は、若干上昇している。授業に関しては、教員経験が短い教員が半数以上のため自己評価が低くなっている可能性がある。今後に期待する。研究・研修に関しては、昨年より研修参加が増えたため上昇がみられた。